

1972年大会をきっかけに発展

都市基盤の整備が促進



世界的な知名度の向上により 国際観光都市へ発展



大会開催を新たな100年の礎に



札幌が、もっとはじまる。

多くの人々の思いを結集し、
大会の開催を契機に、将来も札幌が輝き続けるまちへ

大会ビジョン

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック

Sustainable Olympic and Paralympic Games unique to Sapporo

～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～



持続可能な

○札幌のまち

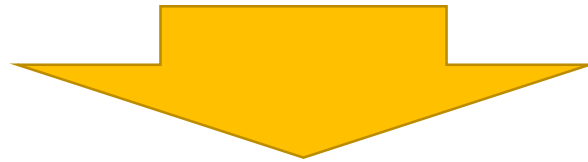
○地球環境

○オリンピック・パラリンピック

を実現する大会

大会がもたらすまちの未来①

オリンピック・パラリンピックの開催を通じて、
目指すまちの姿（ターゲット）と
大会によってもたらされるもの（レガシー）を
4つの分野に分け明確化



スポーツ・健康

社 会

経済・まちづくり

環 境

大会がもたらすまちの未来②

スポーツ・健康

ターゲット

スポーツによる健康で活力のある社会

レガシー

ジュニア選手の
発掘・育成



気軽にスポーツができる
環境の整備



多くのボランティアと
ともに創る大会の実現



大会がもたらすまちの未来③

経済・まちづくり

ターゲット

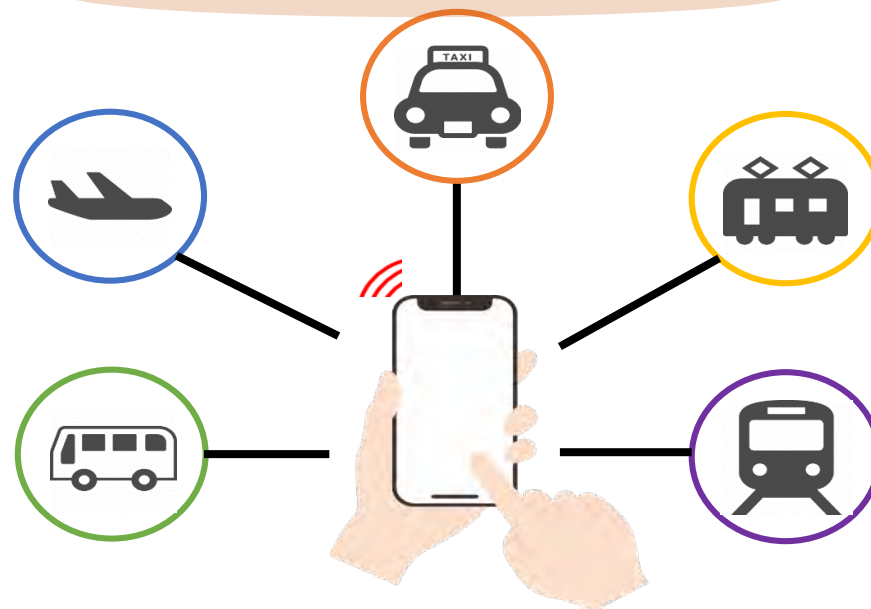
世界に躍進する魅力あふれるまちづくり

レガシー

スノーリゾートシティの実現



シームレスで快適な 移動環境の構築



大会がもたらすまちの未来④

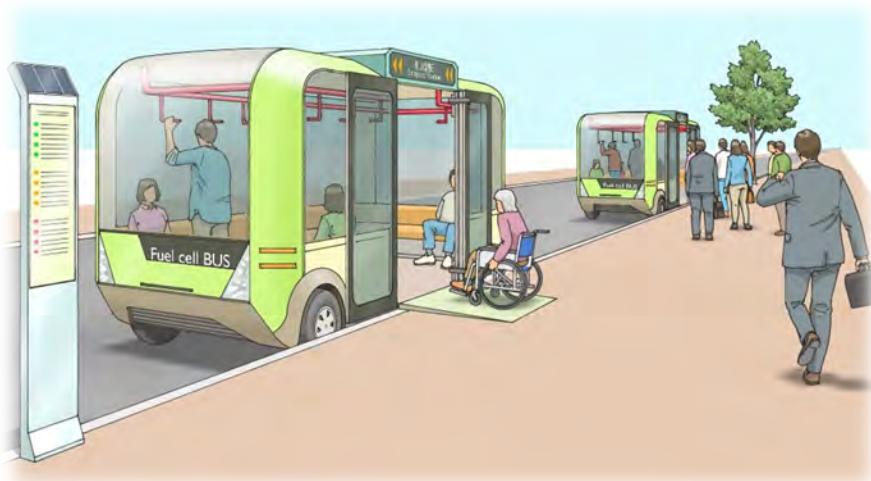
社 会

ターゲット

全ての人にやさしい共生社会の実現

レガシー

インフラの
バリアフリー化促進



心のバリアフリーの普及



大会がもたらすまちの未来⑤

環 境

ターゲット

次世代が豊かな自然を享受できるまち

レガシー

再生可能エネルギーの利活用



森林等の自然環境保全

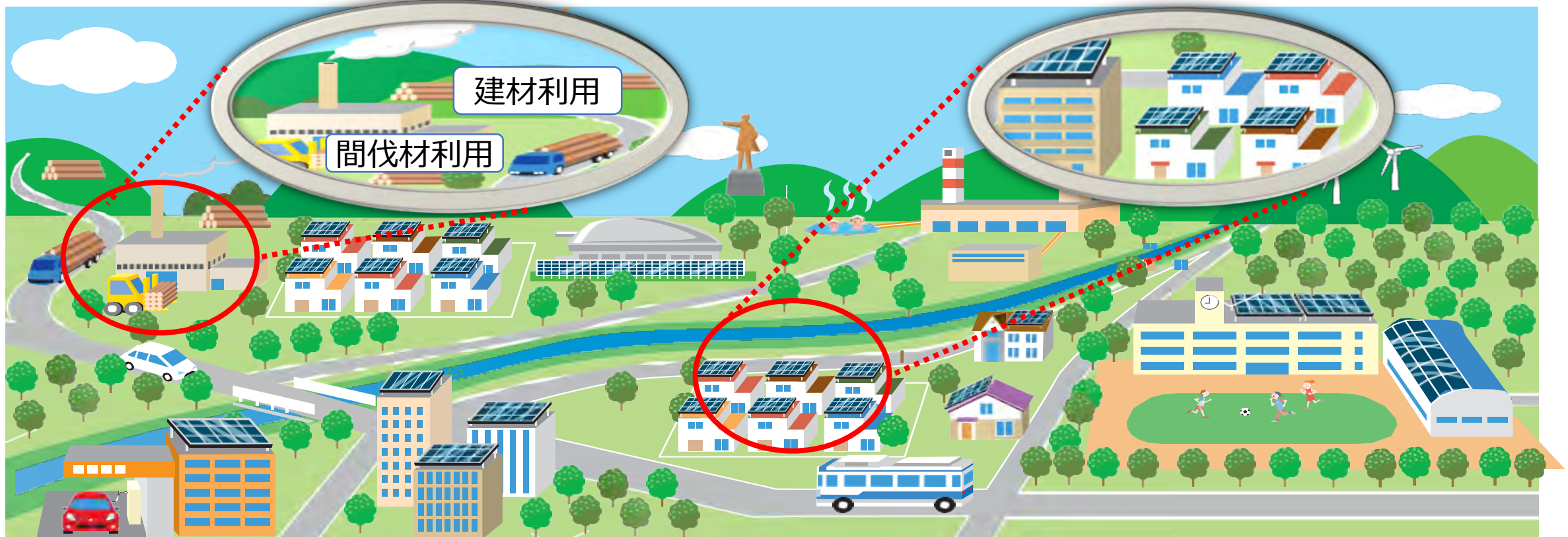


人と地球にやさしいまち①

世界に発信する持続可能な取り組みモデル（例：気候変動対策）

CO₂の削減・森林等の保全

省エネを徹底した建物の普及



人と地球にやさしいまち②

春



夏



この明瞭な四季を
次世代に

秋

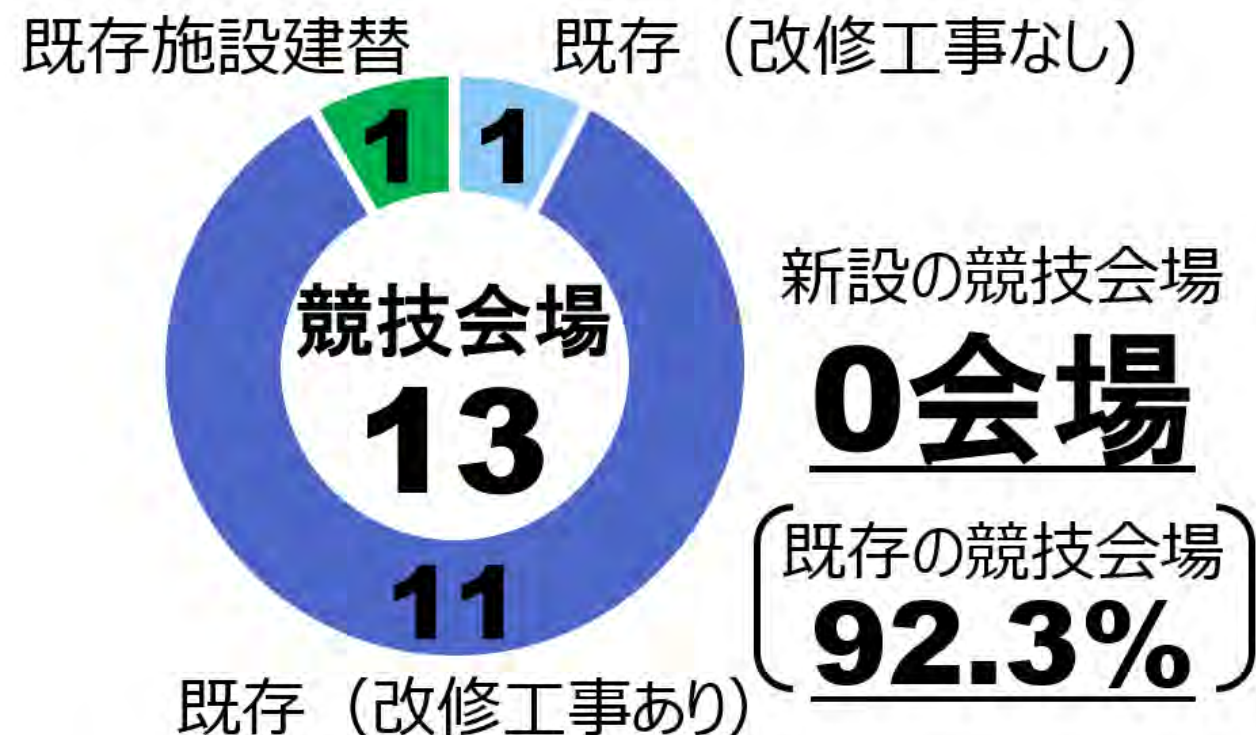


冬



大会概要（案）のポイント①

持続可能な大会モデル



既存施設の最大限の活用



大会概要（案）のポイント②

持続可能な大会モデル

大会運営費

2,000
～2,200 億円

施設整備費

800 億円
(札幌市負担450億円)

大会経費の試算

○施設整備費

既存施設の延命化・
更新のみを実施し、
施設の新設をゼロに

○大会運営費

IOC負担金やスポンサー
収入等を活用し、原則、
税金の投入しない計画

大会概要①

オリンピック

開催期間 2030年2月8日(金)～24日(日)の17日間※1

競技数 7競技 109種目※1

選手数 2,891人※2

※1 北京2022大会を参考に想定

※2 平昌2018大会の実績値



大会概要②

パラリンピック

開催期間 2030年3月8日(金)～17日(日)の10日間※1

競技数 6競技 80種目※1

選手数 563人※2

※1 北京2022大会を参考に想定

※2 平昌2018大会の実績値



会場配置計画

札幌オリンピックのレガシー施設



大倉山ジャンプ競技場

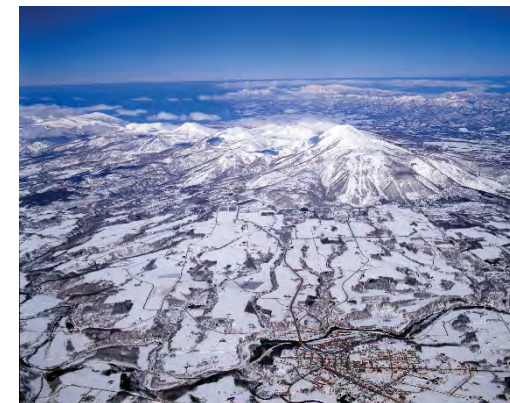


月寒体育館



北海道立真駒内屋内競技場

世界に誇る自然資源



ニセコエリア

既存施設の活用



帯広の森
屋内スピードスケート場



長野市ボブスレー・
リュージュパーク

都心近くのスキー場



さっぽろばんけいスキー場



サッポロテイネスキー場

目指す大会の姿

アスリートへの熱い声援



パラリンピック「I'm possible」



毎日新聞社/アフロ

皆さまとともに創る大会

市民対話事業

- 有識者を招いたシンポジウムの開催や、子ども向け・一般市民向けのワークショップなどを、来年1月から順次開催
- 1972年札幌大会50周年記念事業や、2022年北京大会と連動した事業の中で、招致に向けた広報や意見募集を実施
- 2021年度内に市民・道民を対象とした意向調査を実施予定



たくさんの人の力と想いを



結集する大会へ..